

宗 武志

島も瘦せたが  
友も瘦せた。  
魚型を削りながら  
だまって 潮を見る。  
だが おれには夢がある。  
言いさして 友は笑う。

深夜 世界図をひらく、  
コンパスを取る、  
島を軸に ぐるっと廻す。

一九六四年  
新対馬島誌「序」

佐原 大坂川石



広報つしま発刊100号記念  
わたしたち

上見坂公園

# 対馬の在り方を考える

国境に位置する私たちの"対馬"は、「辺境」。なのでしょうか？

しかし、世界地図に目を転じれば、

"対馬"は「東アジアの中心」だと言えるでしょう。

魏志倭人伝には、私たちの先人は「乗船南北市糶(船に乗り南や北に海を行き来し交易をしていた)」とあります。

わたしたち対馬の四方を取り囲む「海」は、私たちを隔絶するものではなく、  
古来から私たちと世界を繋ぐ「とびら」なのです。

今回の「next door」は、わたしたち対馬の可能性を探り、わたしたち対馬の在り方を考えます。

©2010 Google

## 対馬は奇跡的な位置



永留美里さん(25)

対馬空港航空部旅客課勤務。対馬高校卒業後、韓国の釜慶大学に進学、英語・韓国語を学ぶ。得意の韓国語を生かして日韓を繋ぐ役割を果たしたいと話す。

だと思いません。立派な施設がなくてもテントを張ってのキャンプや登山は人気があります。ただし、野放しの自然だけでは喜ばれないと思います。トイレが汚なかったり、草が生い茂っていたりはいけない。まずは受け入れる側の対馬の人が、気持ちよく喜んで利用するような雰囲気大事ですよ。

釜慶大学時代、釜山に住んで感じたのは、「釜山の人は対馬のことをよく知っている」ということでした。ツシマとかテマドと言つてまず分らない人はいません。だから他の日本出身者よりも話が弾むということによくありましたね。

今、対馬には、空路 対馬 ソウルの直行便が20人乗りのチャーター機で週2〜3便、航路 対馬 釜山に3社が就航し、毎日たくさん韓国人観光客が訪れています。私も会社間のやり取りに通訳として同行することも多く、最近ではソウルが身近になっています。

韓国の方は何を求めているんだろっ？と考えたとき、やはり「自然」

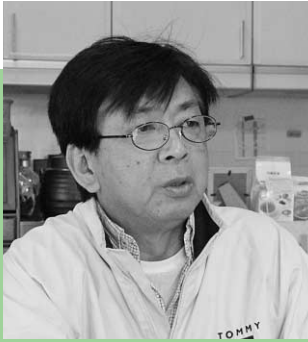
そしてまずは、韓国に一度行ってみることをお勧めしたいです。自分ができることは、通訳をしたり、韓国の方を理解できることです。仕事も含めて、対馬で何ができるかと新しいステップにむけて模索中です。きっとビジネスチャンスはあるはず。

## 国内外の適材流通で

### 山の価値を上げる

韓国は森林資源が乏しく、建築資材は輸入に頼っている状況です。安価な木材が入らなくなったり、中国も世界から集め始めたところ

に日本のスギ・ヒノキが伐採時期を迎え、韓国が対馬の木材に目をむけはじめたのが今回の輸出の背景にあります。また韓国では富裕層を中心に、日本のヒノキを高級素材として使い始める傾向も出ています。今回輸出したのは間伐した韓国仕様のヒノキ丸太で、協業体では、はじめての取り組みでした。これまで輸出に関心が無かったわけではありませんが、森林所有者の利益を追求した時、慎重にならざるを得ませんでした。そんな中、今回踏み切ったのは、仲介役となる商社を通さず、釜山の業者と直



石井弘康さん(55)

美津島町で製材業を営む。素材生産者や森林所有者、製材業者らで構成する「フォレスト対馬協業体(8社)の代表。このほど協業体としては初めてとなる韓国への木材輸出を行った。

接取引ができたことが大きかったですね。貿易に関する手続きは大変でしたが、これによって中間マージンが削減され、韓国は安く買える、対馬は高く売れるということに繋がりました。当面は、需要がある」と見込んでいます。

将来的には製品の出荷を目指しています。丸太のままだと韓国で製材されます。雇用の面でも、加工や製材の経費が対馬におちるようなシステムを作っていきたいと考えています。また、日本国内では安いけれど韓国では高値で取引できる、そういう部位もあります。そこは製材業者が専門とするところです。今回のように国内仕様・韓国仕様と適材流通を行うことで、適正な価格・流通のダブ付きを防ぎ、結果として対馬の山の価値をあげていきたいと思っています。

話ばかりですが、あるアンケートで韓国人観光客が旅費や宿泊費以外に平均4,000円しか使っていないということを知りました。これは対馬がお金を落とす機会を与えていないと私は受け止めています。情報収集をしたり上を目指すことが今の対馬に必要なと思います。



梅野昌宏さん(50)

水産物輸出入業を営み、13年前からヌタウナギを韓国に輸出。作詞作曲を手掛ける音楽家としても知られ、朝7時のチャイム「夢・この街」は梅野さん作。

## 対馬が拠点となって 動ける経済活動を

ヌタウナギは、日本での需要はほとんどありませんが、韓国では高級魚の一つで滋養食として喜ばれます。屋台でよく見かけますし、家庭でも鍋などに使われているようです。資源が枯渇している韓国に比べ、対馬は好漁場として知られます。アナゴと同じ漁法で、海域を変え漁獲されています。

この輸出のメリットはなんといっても韓国まで近いため、輸送コストが安く抑えられるということ。さらに、運搬では、韓国から輸入されるアナゴをおろした後、ヌタウナギを持ち帰ってもらうことで両者にメリットがあります。貿易にはいろんな壁もありますが長い

スパンで信頼関係を築くことを大切にできたから13年続いてきたと思います。雨森芳洲先生の「互いに争わず欺かず」の精神ですね。

という私は韓国大好きで、昨年も10回くらい行きました。ほとんどプライベートです。音楽を通じて出会った旅行者と仲良くなることも多く、そのま

今、対馬に観光客がたくさん来ていますが外貨を獲得するという面ではまだまだ意識が低いと感じています。対馬という特異な立地条件を生かし、韓国・中国・福岡など外からいろんなものを取り入れ、対馬が拠点となって動ける経済活動になればと思います。宗家が仲介役となって日朝の交流があった時代のように…。

観光客にもリピーターになってもらわなければいけません。きれいな山や歴史もですが、また来たいと思うには誰とふれあったかが大事だと思えます。コミュニケーションを取る勇気が一人一人に必要なのではないでしょうか。

# 日帰りの海外旅行ができる対馬

九州大学で江戸時代の韓国語教育を研究していた時、韓国語教科書に雨森芳洲と書かれていたのでさらに調べたら「対馬」という言葉がでてきました。それが私と対馬の出会いです。韓国では結婚して妊娠すると夫婦でどこかに旅行をするという習慣があるのですが、迷わず対馬を選び、そこで地元の方の温かさにもなれました。以来「対馬に住みたい」と言い続けていたら夢が叶ったんです。

勤務している対馬高校で驚いたことがあります。それは周りの先生たちが「対馬に在る間に韓国語を覚えたい」とか、韓国に旅行したい」と話すことでした。韓国人の私からすれば、「日本人がそう話すことが驚きで、対馬は韓国に近い」とあらためて実感したんです。毎日たくさんの方が韓国から対馬に来ていて、私もびっくりしています。ここに住むまでわかりませんが、日帰りできる海外旅行なんて他にはありませんからね。ただ心配なのは、この人たちがもう一度来てくれるだろうか？というところ。歴史や自然観光が重視されて

いますが、できればテーマ別にいろんな旅行プランがあればと思います。個人的には、韓国で大ブームの木のおもちや。対馬の木材を使ったお店があると人気があると嬉しいです。

市民劇団「漁火」の韓国公演では文化の力を感じました！公演は字幕だったにも関わらず、涙を流したり「対馬が日本と韓国の間で苦労したことがよくわかった」という声を聞きました。この舞台がきっかけで対馬の本を読んだり、対馬に行きたいという人が増えるかもしれません。この公演が韓国のあちらこちらで上演されることを強く願います。

対馬の様に友好的にまちづくりをしている国境つて他にあるんでしょうか？そこが素晴らしいと思います。対馬なりの生き方、方法は必ずあるはずですよ。



李 美蘭さん(33)

昨年4月より対馬高校韓国語講師。釜慶大学で外国人に韓国語を教え、その後、九州大学大学院に進む。現在は、ソウルに住むご主人と離れ、息子ソヌ君と対馬で暮らす。市民劇団員としても活躍中。



ものの考え方や立ち位置の見方を変えるだけで、わたしたち対馬のチャンスは無限に広がっています。私たちが気づき、動きさえすれば...

さあ、動き出そう！「誇り高き孤高の島」を目指して!!